

7. ミニ療育活動（なかよし教室）

○目的 発達の遅れ（疑いを含め）のある乳幼児及びその保護者が、遊びを中心とした小規模集団活動を共に行うことにより、こどもの発達を促すことや保護者を支援していく

○運営方針

- (1) こどもの姿を受け入れ、年間を通してこどもが繰り返し経験していく中で見通しをもって活動できるようにしていく。
- (2) 一人ひとりのこどもの状況を見ながら安定して過ごせるようにし、いろいろな活動を経験できるようにしていく。
- (3) こどもへのかかわりについては、保護者によいところ、出来そうなこと、しようとしていることなどこどもの内面を知らせながら共に発達を促していくようにする。
- (4) 保護者が教室で安心して情報交換や仲間と相談できる場を作り、保護者支援をしていく。また、専門的な相談については個別相談で対応していく。
- (5) 療育についての専門的な対応については、個別相談や発達健康相談等の情報を得ながら共通の課題で療育していく。

○基本的な考え方

なかよし教室は、子育て支援センターに位置付けられ、親子支援の場として発達健康相談、医療機関等からの紹介により「気になる」という段階からの支援を行っている。そして次のステップの関係機関等へのつなぎ的な役割を持つ場である。そのため、関係機関と連携をとりながら実施していく。

○実施日 月・火・木曜日 午前10時～12時に実施

令和5年度：135日実施

○対象 松江市発達健康相談等から紹介を受けた未就学児とその保護者

○実施状況 療育活動、個別及びグループ相談、検討委員会、関係機関との連携を行う。

○実施内容

(1) 療育活動

① 療育目標

- ・いろいろな活動を通して遊びの経験を広げる。
- ・親子でふれあい、楽しい雰囲気の中で親子の絆を深める。
- ・小集団の親子やスタッフとのかかわりの中で社会性の芽を育てる。
- ・子育てやこどものことについて話し合い、親同士の交流を深める。
- ・こどもの発達や育児に関する不安や悩みの相談に応じる。

② 活動内容

- ・繰り返しによりこどもが見通しを持てる活動：シール貼り、おはようの歌、あいさつ、お返事「はい」、手遊び、体操、読み聞かせ、さようならの歌
- ・遊びの経験を広げる活動：運動遊び、庭遊び、ぬたくり、粘土遊び、感触遊び、水遊び（プール遊び）、運動会、遠足、音楽療法、幼保園のぎとの交流等

③ 個別及びグループ相談（医師、学識経験者等の専門スタッフによる療育相談の実施）

- ・医師 年間1回
- ・臨床発達心理士（2名） 年間4回

④ 検討委員会の実施 令和5年7月19日 水曜日

○利用状況

- ① 紹介親子数 14 組(令和3年度からの継続児 4 組・4 年度新規数10 組)
- ② 出席親子数 14 組
- ③ 対象児の紹介時の年齢(継続児については令和 5 年4月1日現在の年齢)

1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
6(0)	8(9)	0(5)	0(0)	0(0)	14(14)

※()は令和 5 年度終了時の年齢

- ④ 併用先 児童発達支援センター・保育所一時保育・医療機関
- ⑤ 利用人数

月	実施日数	延べ児童数	延べ親数	合計	実児童数
4	10	17	17	34	4
5	13	31	31	62	6
6	13	34	34	68	6
7	12	31	31	62	8
8	12	33	33	66	7
9	11	44	44	88	9
10	13	50	50	100	8
11	12	56	56	112	9
12	11	50	51	101	10
1	10	57	50	107	11
2	12	74	74	148	13
3	6	56	56	112	13
合計	135	523	524	1047	

○令和 5 年度進路状況

終了児 6 名【幼稚園 3 名、認定こども園1名、児童発達支援センター1 名、転出1名】

継続児 8名

○評価と今後の課題

- ・小集団の中で繰り返しの経験をすることで、こどものよりよい発達促進につながっている。
- ・各専門機関と連携し、検討会議でケース検討を行ったり、個別相談の際にカンファレンスをしたりすることで、支援の方法、こどもの見方、捉え方などを専門的に学ぶことができ、こどもへも保護者へも一人一人に応じたより具体的な支援を行うことができた。また、発達・教育相談支援センター(エスコ)や健康推進課の保健師にも相談しながら支援を行っている。
- ・検討会議は 7 月に開催し、特に気になるこどものケース検討をし、今後の療育や支援の方法、進路の方向性を話し合う会とした。そのため、会での助言を参考にし、日々スタッフで話し合いながら、よりいろいろなアイデアを出したり、支援方法を考えたりしながら行うことができた。また、特に気になる親子については、保健師と医師に共通理解を図り、迅速な対応ができたケースもあった。7月以降に入級してきたこどもについては個別相談時にスタッフが講師に意見を仰ぐことで日々の支援に役立てることにつながった。
- ・今年度も保育所・幼稚園に入園する際には、保護者、入園先の職員、なかよし教室スタッフで移行会議を実施し、こどもがスムーズに園生活に慣れ、保護者の不安を減らすよう配慮した。
- ・5月以降、新型コロナウイルス感染症が第5類に引き下げられたことで、以前のようにおやつタイムを設け、保護者の情報交換タイムも再開した。保護者同士で日ごろの悩みを共有するなど情報交換の時間となり、親睦が深まった。